

平成州紙



おりおりの記

気候変動に思う

三菱UFJ証券ホールディングス
代表取締役会長

長岡 孝

NHKドキュメンタリー「地球事変」をシリーズで観た。

地球が誕生して46億年。約10万年のサイクルで気温の変動がみられ、氷期と間氷期が繰り返されている。そのサイクルの中で、13世紀から19世紀は小氷期と呼ばれ、欧州では、寒さだけではなく長雨や干ばつなど異常な気象が起き、穀物の不作からパンの価格が3倍に高騰し、フランス革命へとつながった。気象が歴史を変え、知恵と情熱が社会を変化させ、人を進化させてきたという内容だ。

20世紀後半から、気温が急激に上昇し始めた。いわゆる地球温暖化だ。特に毎年、異常気象という言葉を目にする。日本でも大雨や長雨、強烈な台風・竜巻や高温を身近に実感し、西日本の豪雨災害は国難級災害で痛ましい現実である。極端な気候がもたらす災害は増大している。

IPCCによると、気候変動をもたらす原因には、火山活動や太陽活動などの自然起源もあるが、20世紀の世界平均気温のかつてない上昇は、人類の産業活動等による温室効果ガスの増加により科学的に説明ができ、かつ、人為的な原因を抜きにしては説明できないようだ。

世界経済フォーラムの年次総会でも、気候変動関連リスクは起きる確率もインパクトも大きいと認識され、また、金融安定理事会も、気候変動が金融の安定を脅かす大きなリスクであるとして、情報開示の必要性を強調している。

私自身もそうだが、人は誰も今の状況が続く

と考えがちだ。日々の活動の中で、自らの意識や行動を積極的に変えていくのは容易ではない。一方で、気象の急激な変化が思わぬ災害をもたらしている



歴史を振り返ると、現在の地球環境の大きな変化の兆候を、ただ見守り放置するのではなく、多くの人々がこの認識を高め行動していかななくてはならない。不作為は、生命・社会を破壊しかねない。

日本証券業協会は、本年3月に「SDGs宣言」を公表した。

気候変動がもたらすリスクを認識し、また、企業が取り組む気候変動対策をビジネス機会や経済成長の原動力ととらえ、中長期的な視点から、持続可能な社会に向かう金融の仕組みを幅広く構築していくことが求められている。グリーンボンドはその一例だ。

知恵と情熱が社会を変える。次の世代を担う人々のために、証券市場・資本市場が果たす意義・役割を十分に認識し、本業を通じた社会課題の解決に取り組んでいくことが、市場が本来求める貯蓄から資産形成への大きな流れを作っていくように思う。